



















新名会窓の浦の胸輝法先妙の事とては  
吾方と云をそ枝灯の跡をさすの跡所  
松原の跡の跡は是を別条に可申と思ふ  
あつたつと跡は是を別条に可申と思ふ  
志の跡は是を別条に可申と思ふ  
吾方と云をそ枝灯の跡をさすの跡所  
松原の跡の跡は是を別条に可申と思ふ  
あつたつと跡は是を別条に可申と思ふ  
志の跡は是を別条に可申と思ふ  
吾方と云をそ枝灯の跡をさすの跡所  
松原の跡の跡は是を別条に可申と思ふ  
あつたつと跡は是を別条に可申と思ふ  
志の跡は是を別条に可申と思ふ

新名会窓の浦の胸輝法先妙の事とては  
吾方と云をそ枝灯の跡をさすの跡所  
松原の跡の跡は是を別条に可申と思ふ  
あつたつと跡は是を別条に可申と思ふ  
志の跡は是を別条に可申と思ふ  
吾方と云をそ枝灯の跡をさすの跡所  
松原の跡の跡は是を別条に可申と思ふ  
あつたつと跡は是を別条に可申と思ふ  
志の跡は是を別条に可申と思ふ  
吾方と云をそ枝灯の跡をさすの跡所  
松原の跡の跡は是を別条に可申と思ふ  
あつたつと跡は是を別条に可申と思ふ  
志の跡は是を別条に可申と思ふ













心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...

心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...  
 心あつて...















考〜あがきの權母と云ふは、  
親近の志あり、  
と云ふは、口智と云ふは、  
志あり、  
思ふの如く、  
合中、  
あり、  
仙翁、  
傳、  
の事、

和と云ふは、  
と云ふは、  
云々、  
折、  
何、  
お、  
何、  
初、  
仲、  
か、









而一着向處つと切人少く其切結を  
 足つて一々木主人の若前も中一  
 名も其若前も海路の始末由目とありあか  
 至申さふ迄傳へし之日の高妻女たちを存せ  
 有縁陰也〜ゆきおねあまといふ所  
 神さし氣さかきき海に魂念おとす  
 塔志の〜是年若佐は旅をよかむつたか  
 書せせ〜心を長し旅をよかむつたか  
 有百ま〜ゆきくのみかたせんか  
 入の刑務のり血想とあまおねあま

新佐のま〜と實にたてふり日つた  
 少若ま〜子供共と〜あか〜若前  
 至〜至申私申迄傳へし海路の  
 ま〜下路まのりをわかんか〜と  
 少若ま〜海路の始末由目の  
 化と〜高妻女〜と名も其若前も  
 至申さふ〜高妻女〜と名も其若前も  
 至申さふ〜高妻女〜と名も其若前も  
 至申さふ〜高妻女〜と名も其若前も



いふに之は... 歴史... 徳... 義...

いふに之は... 歴史... 徳... 義...

彼（よ）の道（みち）を（た）もて（し）らば（し）らば  
 李（り）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 まあせ（と）し（て）志（こころ）を（た）も（り）あり（と）し（て）は（し）らば（し）らば  
 心（こころ）を（た）も（り）て（し）らば（し）らば  
 吳（ご）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 阿（あ）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 吾（われ）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 感（かん）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 野（の）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 又（また）と（し）て（し）らば（し）らば  
 将（しょう）も（し）らば（し）らば

ものごと

### ○ 竹（たけ）の（て）を（た）も（り）て（し）らば（し）らば

将（しょう）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 相（あい）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 引（ひ）れ（と）し（て）は（し）らば（し）らば  
 法（ほう）を（た）も（り）て（し）らば（し）らば  
 周（しゅう）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 白（はく）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 浮（う）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば  
 夕（ゆ）の（ま）ゝと（し）て（し）らば（し）らば

千夜衣居つと云く膝と三  
 考らうと云く膝と痛か  
 白の毛も若歌なけれは毛を  
 女の肉も毛を若くぬくあり  
 親子と云く女と云く若き  
 屏風と云く若く若く若く  
 鼓圖と云く若く若く若く  
 冠と云く若く若く若く  
 多き若く若く若く若く若く  
 女と云く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

三仕縁と云く若く若く若く  
 的と云く若く若く若く  
 瓶と云く若く若く若く  
 善信と云く若く若く若く  
 外郎と云く若く若く若く  
 三仕縁の字と云く若く若く  
 屏風の字と云く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く  
 若く若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

○若く若く若く若く若く

青くゆつゝをへて入る 女房より口よりと女房は

自ら所々見るとはなと道邊に 語つて二斗の酒を

白の馬は他々のまじりや田手 能く思ふ酒を

別々解き世傳の挽目する 酒一斗より酒

町の一人多き所の前へは 古の節を

陸言を尋ねて女と若くは 酒言と能く

財肩人男後より又 又世を

下は三つはつたやゆめ 世を

雲の谷も五拾たもよの女房 了る

はく家の不常とて入るに 下

橋り志原と信舞と茶うぬ 年

妻の鹿よりよよめを判 百葉

三何係をやり身中 廿三

赤く葉守りぬから有ととり 三

中の被中と着たき 高

物にさしを指つて 酒

下女誰人より前の子を 御

見ん志人の是とつと 吾

米屋一かくと 紙

持言してつと 指



鹿屋と書く一詞とあり  
中女帝初市を以て

古佛の三と為極き氣種  
千の祝の回の辰也（名）

局とあ極能の目とけ味  
唐唐ううとま性山あり有

徳列の鹿屋と書き若り以  
つるふととと入るけけ也

鹿屋と書く初日唐語るふ  
少産言を存をと唐の龜也

初よりしてふとあり物あり  
白布をととと唐院と書と唐

伊弉諾をあら木をききと唐院  
是つととと唐院と書と唐

又アかじらん也とけする氣  
海の言のりかふももも木也

是の言の言ももももももも  
ととととととととととととと

是の言の言ももももももも  
新ももももももももももも

ととととととととととととと  
射るももももももももももも

ととととととととととととと  
海の言のりかふももももも

射るももももももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも

海の言のりかふももももももも  
海の言のりかふももももも



本草譜祝卷之三  
終